

湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

湘南医療大学

保健医療学部看護学科

ラウ優紀子

2023年10月16日

1. 教育の責任

湘南医療大学は「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」をもって建学の理念としている。また、保健医療学部は、生命の尊厳を基に、科学的及び文化的専門知識・技術を身につけ、保健・医療・福祉・教育を総合的な視野で捉えられる看護師・保健師および理学療法士・作業療法士を養成し、地域社会はもとより、国際社会の発展に貢献できる人間を養成することを目的とする。

教員には、学生が医学・看護学領域において、幅広い社会的視野の下に事象を多角的且つ包括的に捉え、その事象(課題)の状況の維持・増進または、改善・解決を科学的根拠に基づきながら、自立して行えるようになること、そのために必要となる基礎的知識と技術を有する看護師を育成する責務があると考えている。したがって、私は看護学科の教員として、以下の科目を担当している。

<前期>

科目名	学年	必修・選択	単位
老年看護学	2	必修	1
看護基礎ゼミ	1	必修	1
看護基盤実習 I	1	必修	2
保健行政論	2	選択	1
老年看護学実習 I (旧)*	2	必修	2

* 特別開講

<後期>

科目名	学年	必修・選択	単位
老年看護方法論	2	必修	1
生涯発達看護論	1	必修	1
プロフェッショナル論 I	2	必修	1
看護基盤実習 II	2	必修	4

その他に取り組んでいる教育活動は、以下のとおりである。

- 1) 2024 年度実習ワーキング
- 2) 1 学年のチューター
- 3) 学生支援委員会委員
- 4) 看護実践力育成ワーキングメンバー
- 5) 看護師を対象とした看護の研修会講師(看護キャリア開発コアセンター主催)
- 6) 高校生を対象にした模擬授業の実施

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

看護学科の教育目的は、幅広い視野で人間を理解できる教養を備え、専門職業人としての倫理観を育み、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を身につけ、地域・社会に貢献できる能力をもつ人材を養成することである。

看護学科のディプロマ・ポリシーは、①人間の命と個を尊重できる力 ②エビデンスに基づく実践力 ③援助的コミュニケーション ④チームで連携し協働する力 ⑤安全を保障する力 ⑥看護の発展に対応する力 である。これらの内容は、看護の対象となる人々を全人的に評価し、適切な支援ができる能力を養うことを意味している。この能力を養うべく、看護師に求められる資質として、看護学の基礎的知識と科学的根拠に基づく基礎技術を身につけることに加え、人間としての誠実さ・素直さ・優しさ・良心・社会性・協調性がある。そして、豊かな教養と品格、礼儀作法を見につけていることが必要である。これらの資質を備えることにより、多様な人々に柔軟に対応することが出来、個々の特性に配慮した適切な看護を提供することが可能になると考える。

2) 理念をもつに至った背景

上記の理念をもつに至った背景には3つの要素がある。一つは、医療機関・介護老人保健施設・訪問看護ステーションにおける臨床実務経験とそこで得た学びである。老年看護学教育に携わる者として当該分野での臨床実務経験は必須であると考え、医療機関のみならず、地域における高齢者看護を経験してきた。このことは、既習の学問や理論が、ケアの現状に合致したものであるかを再考する機会になる他、日々、変化する社会情勢と医療・ケアの実情に合わせた看護教育の実践に繋がるものである。二つ目は、アメリカ留学で得た様々な経験である。アメリカで得た学問的知識と技術を本学の教育に還元する努力を行っている他、国際性豊かな人材育成の観点から民族・思考・価値観・文化・生活習慣の多様性を理解し、他者と人間関係・信頼関係を構築することの大切さ、自国を客観的にみることの重要性、人間力を育むことの大切さについて教育活動を通して伝えている。三つ目は、私が患者・家族の立場を経験したことにより得た学びである。看護師や看護教育に携わる者が患者や家族の立場を経験することは、看護師という専門職を客観的に観察する機会を得るという点で非常に重要であり、その中で見えてくる看護の良さと課題を教育活動に活かしている。

3. 教育の方法・戦略

先述した理念を実現するために、私が実践している教育方法の概要は以下のとおりである。

- 1) 国際的視野をもって高齢者を理解する。
- 2) 高齢者を多面的・包括的に理解する。
- 3) 体験学習の重要性。
- 4) 自己の日常における生活体験を振り返り、学習に結び付ける。

5) 分かりやすい説明と学習に効果的なビデオ教材の活用。

1) 国際的視野をもって高齢者を理解する。

統計学・疫学的側面からみる高齢者像については、わが国の動向を紹介すると共に海外の動向も伝えることで、国際比較を通して改めてわが国の状況と課題などを広い視野で客観的に捉えられるようにしている。そのために、私自身も日ごろから学術誌や新聞等を通して海外の最新動向に注意を払い、海外の教育・研究者と情報交換を行っている。

2) 高齢者を多面的・包括的に理解する。

高齢者を身体・心理・社会的側面から理解することはもとより、高齢者に関連する国の施策、法制度、医療保険・介護保険制度、経済学的側面など様々な観点から多面的・包括的に見ることの大切さを意識した教育を心がけている。

3) 分かりやすい説明と学習に効果的なビデオ教材の選定と活用。

青年期を生きており、人生経験も少ない学生が、その先の老年期を生きる人々を理解することは難しいことである感じている。したがって、高齢者に関連する様々な理論について講義をする際には、様々な例を用いながらその理論の意味や解釈の仕方を分かりやすく説明し、理解を促すようにしている。また、高齢者自身が語る経験や思いなどを紹介したビデオを選定し、教材として活用している。

4) 自己の日常生活体験を振り返り、学習に結び付ける。

現代の若い世代においては、高齢者と触れ合う機会が少ない人が多いと言われる中においても実際には身近に祖父母が生活していたり、親が祖父母の介護を担う姿を見ていたり、その介護を手伝っていたりすることも少なくないと感じている。したがって、学習内容に関連して自身の日常の高齢者に関連する生活体験を丁寧に振り返ってもらい、学生が見たり感じたりした経験はどのような状況でどのような意味をもつものであったかなどを思考し、看護の学習に結び付けて理解が出来るようにしている。

5) 体験学習の重要性。

高齢者については授業・演習を通して学ぶことにとどまらず、高齢者に実際に関わることを通して高齢者理解を深めてほしいと考えているため、高齢者を対象にした人生の振り返り(ライフレビュー)に関するインタビューを実施している。その他に、加齢による身体機能変化と心理面への影響を知り、考えるためにモデル装着による高齢者疑似体験を実施している。これらの体験学習を通して、自分が老年期にはどのような高齢者でありたいか、老いを自分自身のこととしても捉えた上で、高齢者看護の役割について考えてもらうようにしている。

4. 学習成果

上記の教育活動成果としては、学生から「授業の内容が分かりやすい」との評価を受けた。また、高齢者インタビューを行ったことで「祖父母とはあまり話をすることがなかったが、改めて祖母と向き合い、祖母が生きてきた人生について初めて話を聴くことができた」「戦争や自然災害を乗り越えてきた祖父の強い精神力と生き様に尊敬の念が沸いた」「祖父母が生きてきた時代と現在の私達の時代が大きく異なることに驚いた」など、教科書では伝えることが出来ない高齢者が長年培ってきた人生や思いを知る貴重な学びとなったようであった。さらに高齢者疑似体験学習では、「このように目が見え辛く、身体が動かず不自由になるとは思わなかった」「生活動作について、どのように介護してもらいたいか考えることが出来た」等の感想があった。

5. 改善のための努力

リメディアル教育の観点から以下の改善策を挙げる。

1) 学生の出席率を上げる

前期は、一部の学生に遅刻や欠席が目立った。遅刻の取り扱いは学生便覧にある学則に則り且つ公共交通機関の最大遅延時間に授業開始時間を照らし合わせた上で出席と遅刻の取り扱いを決め、学生が十分な学習時間を確保できるように呼び掛けている。

2) 学習方法の確認と指導

授業は、指定教科書に沿った内容にし、学生が教科書を予習・復習にフル活用出来るようにしており、今後も継続する。国試対策として、頻出問題を意識した学習も出来るようにしている。また、学習時間の確保、効果的な学習方法について説明しており、引き続き行う。

3) 能動的学習の構築と実践

学生の主体性を育むために、演習は、アクティブラーニングを実践する。

6. 今後の目標

1) 短期目標(達成時期:2024年3月)

学生の主体性を育むために、講義・演習に能動的学習方法を積極的に取り入れ、その教育効果について学生と教員による評価を行う。

2) 長期目標

(1)教育の成果をまとめ、学会に発表し、論文投稿する。国内外の教育研究者との交流を通して効果的な教育実践のあり方について知見を得る。

(2)効果的な教育実践報告に関する文献を熟読し、自己の教育実践の参考にする。

以上